

古川なおき 第113号 レポート



自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務調査報告

一月刊 2012年10月16日

乳幼児教育の質の向上

お元気ですか！

山中教授のノーベル医学生理学賞受賞は今の日本に大きな勇気を与えてくれました。一時期、事業仕分けでも多くの科学技術予算が標的にされましたが、科学技術立国として、より一層研究開発を進めるための投資を国家として行うべきだと思います。

さて、ノーベル賞だけでなく、様々な分野において「人材の育成」は我が国にとって生命線とも言える重要な課題です。今の日本を再生するためにも、教育の重要性を多くの識者が指摘しています。

高度で専門的な分野の研究を行う大学、その前段階の高等教育を行う高校、基礎的な学習を行う小中学校、人として生活する基礎を養う乳幼児教育を行う幼稚園や保育園があり、「人材の育成」にとって全て重要な施設です。もちろん教育は学問や研究を極めるだけでなく、人格形成こそ重要です。自立する気概がない国民が増えても国は衰退するだけなので、人格形成のためには、教育機関だけではなく、家庭教育が重要なことはいまでもありません。そして、乳幼児教育こそ重要であると先進国は力を入れています。

先日、ある教育者の講演を聴きました。人類は何故生き延びてきたのか。NHKでも特集されたようですが、動物の中で家族以外の個体と良好な関係を築くことができるのは人間だけだそうです。そして、人類の中でも現存している私たちホモ・サピエンスは、他人の幸せを自分の幸せに感じることができるという特徴を持っていたので、今日まで存続できたという大変興味深いお話をいただきました。また、サルと人間は同じ霊長類として、赤ちゃんの時は顔や仕草が良く似ていますが、大人になるとサルは大きく変化します。ところが人間は大人になっても子どもっぽさが残っていて、人類は霊長類の中でも大人と子どもの差が一番少ないと言われています。特に日本人など黄色人種の成人は子どもらしさが残っているようです。人懐こさや他人とじゃれ合うといった幼さは、個では敵に弱いが集団を作るのに強さを発揮します。私たち現存する人類は、人を信頼する無邪気な心が時に集団を強固にし、お互いに助け合い、困難を乗り越えたからこそ今日まで存続できたのかもしれない。

横浜市では保育園の待機児童をゼロにすべく、保育園の定員を増やしています。幼稚園でも預り保育を行ったり、三年保育の前の2歳児の一年間にプレ幼稚園を実施するところもあります。さまざまな制度があり、保護者の皆さんも迷ってしまうかもしれませんが、乳幼児の教育において最も大切なのは、その子どもにとってどうなのかという観点から物事を考えることだと思います。

また、待機児童の数ばかりが議論になりますが、保育の質や乳幼児教育の内容の議論をもっと深めなければなりません。大家族が減り少子化が進む昨今、異年齢保育を行う保育園を見学させていただいたことがあります。赤ちゃんから就学前の子どもたちが、子どもたちなりに関わり、協力し合って過ごす姿が印象的でした。共働きや核家族化は現実なので、保育園や幼稚園は子どもが他の多くの子どもたちと集団生活を送り、社会性を身につけるチャンスと捉えるべきです。幼児期の体験は大人になってから活きますので、保育園や幼稚園でさまざまな体験ができるように、横浜市としても支援していきたいと思っています。子どもへの支援は将来の横浜市、日本への支援になります。だからこそ乳幼児教育を充実させることが求められていると感じています。

さらに、横浜市独自の幼稚園での預かり保育では、最長で朝の7時30分～18時30分の11時間を幼稚園で過ごしています。家庭と同じように幼稚園で「生活」しています。人と人の関わりを通じて人格形成される以上、子どもにとっては遊びが大変重要です。子どもと遊んでいるだけ、と乳幼児教育を軽く考える声もありますが、乳幼児との関わりは尊く責任も重いものなので、保育士や幼稚園教諭の待遇をもっと向上すべきだと思います。

WTOの発表によると、日本の自殺者は3万人、世界では100万人が自殺しています。社会に出ることを恐れる若者、生活保護の不正受給者、キレやすく怒鳴り散らすクレマーなど、ネガティブな発想からは、人類の発展や日本の発展はないと思います。物事に前向きでポジティブな人が多くなるよう、乳幼児教育の質を向上させ、活力と思いやりの心に満ちた美しい日本を再生したいと思います。皆様のご意見をお待ちしています。

横浜市議員 古川なおき

古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
現在 平成24年 温暖化対策・環境創造・資源循環委員会副委員長
新市庁舎に関する調査特別委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市会 F C キャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 理事
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問

みんなで健康増進！& 市政について気軽に語り合いませんか？
政務調査活動の一環として「市民の皆様のご意見を」直接うかがう！



朝ウォーキング

日時：11月24日(土)7時～8時半

集合場所：こども自然公園（大池公園）正面入り口

★参加される方は、当日直接、集合場所にお集まりください。雨天中止です。



古川なおき事務所学生インターン report

私は、今回のインターンシップで主にレポートの駅頭での配布、ポスティングをしました。他には横浜市議会傍聴や、変わり種としてはソバの蒔きつけなどがありました。さてインターン中に感じた社会問題という今回のテーマに関連した話に移ると、それは駅頭中にありました。おそらく70代と思われる方(男女各1名ずつ)に「君は今の政治がいかに非生産的が知っているかね？」と声をかけられたことです。平たく言えば、からまれたということです。

実際に古川なおき議員の仕事ぶりを見ていればわかることですが、市議員ですらかなり多忙な毎日をご過ごしています。国会議員ならば、きっと超がつくほど大忙しなはずですが、確実に政治家は仕事をしています。しかしその一方で、傍から見れば特に国政は非生産的そのものであることも間違いのないのです。だから、いくら私や秘書の方が「頑張っていますので」と言ったところで効果がない。一人ひとりが一生懸命でも、その仕事の方向性がみんな違うから、事が先に進まない。ここを突かれているのだと感じました。政治への失望・不信、それが私の感じた社会問題でした。

政治に求められるものは「国を良くすること」だということは自明だと思います。しかし、企業に求められるものが「(社会的責任は踏まえつつ)より多くの利益を出す」ということに比べて、とても抽象的です。何を持って「良い」と感じるかというのは、すなわち文字通りの価値観の問題であり、一致は不可能です。いや一致させてはいけません。

とはいえ、ここで思考停止しては何事も前に進まないで、いくつかの意見について考察、自分たちにできることを提案して、このレポートの中核とします。

これ以降の文章には、政治家に頼りきりにならないで自分で前に進まなければならないという文脈が続きます。私のインターン先、古川なおきは自身が政治家であるにも関わらず、政治家に任せっきりにするな、というメッセージを繰り返し伝えていました。普通の人間ならば、「そんなことなんて、おまえはプロ失格だ。有権者の清き一票をなんだと思っているのだ、仕事しろ！」という反論を恐れて、自分が問題を解決する、と宣言しそうなものです。しかしそれは正しい民主主義の在り方ではないと思います。国民は政治の顧客ではありません。運営主体なのです。そのことを臆することなく発言していく古川なおきは口うるさくて気性が激しいですが、私は尊敬しています。

①「現代日本に漂う閉塞感を打破して欲しい」

これは、とても良く聞く願いです。これは橋下市長や日本維新の会、ひいては古川なおきの人気の主な理由でしょう。しかし、わたしはここでマックス・ウェーバーが革命を信じる知識人の前で語ったとされる名言、つまり「政治で人の魂が救済できると思うな」を思い出さずにはられません。政治家がいくら有能であろうと、人の気持ちを強制的に動かすことはできません。人々を水場に案内することはできても、水を飲ませることはできません。そもそも現代日本は閉塞しているのでしょうか。確かに経済成長率はほぼ0かマイナスです。しかし、国の価値は経済だけではありません。英国が長期不況に悩んでいた頃、とある紳士が「我々は落ちぶれていく。しかし、どこまでもゆっくりに、そして優雅に」といったそうです。日本にはまだまだ膨大な海外資産や成長の期待される産業があります。文化も文学、漫画、映画など国際的に認められるようになってきました。日本も現在のイギリスのように、多角的な魅力を備えた成熟国家に変わりつつあるのではないのでしょうか。

つまり、一私を感じる現代日本の閉塞感とは、私の閉塞感ではないだろうか—そう考えてみるのが私たちにできることではないのでしょうか。もちろん政治は大事です。しかし、法律や条例がひとりで動くのでしょうか。それらはいくまで人間が活動するための舞台装置にすぎないのです。政治家は表舞台の役者のようで、じつは裏方なのだ今回のインターンで実感しました。

②「明確な長期的ビジョンをもってほしい」

これは間違いなく必要なことです。長期目標・理念のない団体運営はありえません。ただ、私が問題にしたいのは「明確な」という言葉なのです。よく、政治家の掲げるプランを実現性が乏しいとか、ロードマップが見えないなどと批判する声がありますが、政治とは事態に臨機応変な対応をしつつ、目標を達成することではないのでしょうか。学者が政治をやるとうまくいかないのは、自身の論理にこだわりすぎて、にっちもさっちも行かなくなるからです。また、ソビエト社会主義連邦が滅びた大きな原因である「5カ年計画」も同様といえます。最近では民主党の衆院選マニフェストでしょうか。具体的すぎる計画・目標は政治の世界ではうまくいかないのです。

ドットジェイピーインターン 一橋大学社会学部 1年 荒井 大樹

古川なおき事務所では12月12日(水)18時30分より、ホテルモントレ横浜(山下公園前)にて「古川なおきと楽しむクリスマス会」を開催します(前売りチケット制です)。ブーケショーやフォークバンドの『ピリケン』によるコンサートなど、お楽しみが盛りだくさんです。ご参加希望の方は、お気軽に古川事務所へお問い合わせください。



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: naoki@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています!

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1

E-mail: jimu@furukawa2002.com

